



ためきのポンポ通信

砂川次郎の議会報告 ためきの葉屋さん 滋賀県志賀町小野朝日2-23-1
http://www.asahi-net.or.jp/~ph6j-sngw/ 電話 077-594-1505
Yahoo、Googleにて砂川 次郎で検索可能、E-メールもできるよ

2005年5月号



総務省の係官もドッキ

滋賀県のごり押し合併審議

4月27日総務省へ砂川は出向き「合併告示凍結についての申入れ」をおこない総務省係官と30分ほど意見交換をしてきた。

合併賛成派議員

美山町の議会解散弁明書を

ほとんど丸写し、要約すると

多数決がすべてやから

ワシらは悪くない、悪いのは解散請求

した人たちや。なんだから

学生の時もカンニングしてたんか？

(1) 代表民主制の議会としての表決です。(2) 何ら問題の無い議会の意思決定と考えています。(3) 志賀町の将来を考えた、住民の代表としての判断です。(4) 現在、議会は正常に機能しています。朝日新聞によると「4項目の並び順は一部異なるものの、内容はほぼ同一だった」「ただ、結論部分だけは異なり、美山町議会が「住民投票において、町民の理解ある判断を求める」としているのに対し、志賀町議会は「解散請求は不当であり、議会解散に強く反対するものであります」と結んでいる」引用終。最後の違いが両議会の良識の違である、いかに志賀町議会がゴウマンで住民不在であるかが分かるね。(弁明書とは議会解散請求に対しての議会側の申し開き)

そんな恥かしい議員のいる議会をあなたは望みますか？

上記の答弁書を提出した各議員の議会での意見カッコ内は砂川コメント

田中かおる議員：こころ 答弁書を出さないなら辞職のはずである、自分は辞職しないから上記の答弁書を出すのである。(あまりに幼稚な理論付けなので笑いが漏れる)

中村 武 議員：志政クラブ 弁明して理解してもらおう。

中本 松雄 議員：志政クラブ 議員は住民の付託を受けて出てきている、これまでに間違いは無い。

高山 久七 議員：志政クラブ 廃棄物処理施設の可否の住民投票をすべきである。これまで多数決をしてきた。少数派は多数派工作をすべきであった。堂々と弁明させていただきたい。

(一見もっともだが、2002年6月24日の議会において、志賀町における産業廃棄物焼却処理施設計画についての是非を問う住民投票条例(案)を高山久七議員ら産廃OK議員は反対し否決している事実がある。残念でした!!高山久七議員の言い分はペテンであるとバレチャッタ)

坪井 由美子 議員：公明党 議会解散請求は不当である。解散が正当であると思う議員は辞職せよ。(宗教者とはとても思えん強弁・詭弁・駅弁のご発言、住民の方々の怒りには知らんぷり)

この申し入れの実現には社会党党首福島みずほ事務所および快く紹介して下さった社会党大阪府連合副代表・「市民の絆・大阪」副代表の長崎由美子さんのご尽力がありました。ここに感謝の意を表し、また志賀町の住民の皆さんの運動が近畿レベル・国会レベルでも理解され応援されていることを皆さんにお伝えいたします。

総務省自治行政局市町村課の係長さんが対応してくださって、志賀町・大津市の合併について詳しくお話をしました。

お役人さんが言われるであろうと想定していたお答えが多い中、一つのトピックは合併問題でこの申し入れのように(合併手続きと議会解散住民投票の手続きが同時平行に行われている) なってしまっているケースは**係官でさへ知らない未だ無かったケース**だということでした。係官の語気と表情はこの件の時は明らかに違いました。こんなにもめていて、大きな問題になる発端を感じたのでしょうか。

総務省は志賀町のケースを確実に把握しました。また、合併の告示が出ることは**想定内**のことであり、難しいところではありますがそこから裁判闘争のスタートです。

上記の福島みずほ事務所に快く紹介して下さった長崎由美子さんは 大阪の桃谷方面で弱い立場の人たちに力を貸して長年戦ってはる肝っ玉カアサンです。政治家特有の匂いがしない珍しい方で懇意にさせていただいています。長崎さんは選挙に負けました、しかし選挙に負けてもめげたりはりません、何度でも選挙に出て世に問うことをされます。私が推測するには選挙に勝つのが最大目標ではないからだと思います。長崎さんに議員になってもらいたいと思っている人たちは立場が弱かったり 投票権の無い人が多いのですがそれもまた長崎さんは誇りにされているのだとおもいます。なお長崎さんはクリスチャンです。クリスチャンにもいろんな人がいますね。福島みずほ事務所の福島事務所秘書の上田さん、石川さんたちには この件でサポートを親切にいただきました、ここに心よりお礼を申し上げます。

県議会でごり押しに合併が議決されるのも、国が合併の告知をするのも **想定内** である。たびたび起こる **自称市民派の寝返り**とそれに抗議しない支持者には **アキレル**ばかり!!

一番大事な時に裏切った岡崎県会議員は 住民に早急に謝罪をせよ

岡崎もところ県会議員は 住民を裏切った

経緯説明と謝罪を公にせよ それが出来なければ住民の願いの 議会解散は**失敗**するかも

岡崎もところ女史を選挙の時担いだ人たちは責任を持って

対処しないと住民投票に負けてしまいますよ
このままでは見捨てられて住民投票の投票率が上がらないやろう
草の根運動か 腐り根か の最後の分かれ道でやで～

岡崎もところ県会議員は4月28日に開かれた臨時県議会に おいて、理不尽な志賀町・大津市の合併議案に 反対せず この議案時のみ議場から退出した。

岡崎もところ県会議員は産廃反対・会派に所属しない を公約にし3年前に当選した。しかし、2003年にはほぼ民主党勢力で構成される（社民党一人：沢田亨子議員）県民ネットへ 無所属との公約を破り「一人では何も出来ない」との屁理屈でとりつくり所属した。なお、県民ネットという会派は県が志賀町にある元ゴルフ場用地を産廃焼却場用地として購入する議案に賛成している、また 自民党会派と共に産廃賛成・知事与党の会派であるので所属した当初より 岡崎県議に対して住民より批判や疑いの声があがっていた。

京都新聞の報道では 「岡崎基子議員（県民ネットワーク、滋賀郡選挙区）は「住民投票前で、住民の意思が明らかでない」として退席した。」としている。ウソツキだけしいとはこのことである、産廃を阻止したいと言って自分から立候補し、合併すれば産廃が付いてくる、と合併の是非を問う住民投票の署名に協力し、合併の是非を問う住民投票が議会で否決されるかも、と志賀町議会解散請求の署名に協力していた人が、重要な局面で、合併反対を表明しなかった。また、その理由がヒドク「住民の意思が明らかでない」というアキレタ理由である、自分から上記の理由で立候補して、署名を集めに協力していたご本人が、どこからそんなオキラクな第三者的な理由が言えるのか！！ 岡崎県議は産廃OK会派に取り込まれてしまった。山岡前町長に続いての岡崎県議の裏切りである。岡崎女史を選挙で担いだ議員および団体・特に住民ネットは岡崎議員に対し抗議し、住民に経緯を詳しく公にする義務がある。もしそれが出来なければこの運動は大型産廃焼却場反対を主張した所が違っただけで、保守派と同じ手法を使っただけの権益あらそいでしかない。利用される住民の怒りは計り知れないぞ！！ 住民の方々はお近くの議員・団体幹部に抗議を！！

今しか反省する時は無い、時間は残されていない

総務大臣 麻生太郎 殿

2005年4月27日
滋賀県志賀町町議会議員
砂川 次郎 印

合併告示凍結についての申入れ

4月28日の滋賀県臨時議会において、滋賀県志賀町と大津市との廃置分合議案が取り扱われることとなりました。ほぼ合併の議決は確実で、近く滋賀県より総務省に申請が送付されると思われます。しかし、志賀町の大津市への合併に対する住民の本意は、近々行われる志賀町議会解散の是非を問う住民投票等で判断されることになっており、合併告示を凍結・延期していただくよう申し入れるものです。

志賀町選挙管理委員会は、志賀町議会解散の是非を問う住民投票を2005年5月22日に実施することを決定しました。そもそも、この住民投票の前段において、志賀町町民は、合併という重大な事柄を住民自身で決めたいと署名を集め、選挙管理委員会に「合併の是非を問う住民投票」の実施を求めました。署名が定数以上あると判断されたため、後藤又久志賀町長に送付、町長は反対意見を付して議会に議案を提出しましたが、議会は「合併の是非を問う住民投票」議案を否決しました。

その後、このような住民の直接自決権を否定する議会の態度に異議をもった住民が、住民による直接自治を行う最後の手段として、3月24日、有権者の三分の一を超える6339筆の署名を添えて、「志賀町議会解散の是非を問う住民投票」の本請求を行いました。この6339筆は、後藤又久志賀町長が町長選挙で得票した5927票を上回っていることに注目する必要があります。後藤町長は「町長選挙が事実上の住民投票であった」と言っていますが、この数字がそれは間違いであることを示しています。

以上の経緯により、5月22日に投票される志賀町議会解散の是非を問う住民投票こそが、事実上の合併についての住民の意思決定であると言えます。地方自治の趣旨である住民の意向こそを自治に反映させるために、住民投票の結果がでるまで、また住民投票で議会解散が決定された際には、議員選挙が行われ新議会の意向が判明するまで、志賀町と大津市の合併の告示を凍結・延期していただくよう強く申し入れます。

以上

裏切りと事実隠しが相次ぐ住民運動を猛省する最後のチャンス

昨年起こった事件である。産廃白紙撤回・合併は産廃問題が解決してから、との公約を掲げ当選した前山岡町長はいつのまにか合併推進に寝返り（公文書議事録にて明白）酒場での暴力事件の噂（ペイリークラブよりチラシも出ていた）のなか急に体調不良を理由に辞職。山岡前町長を選挙で担いだ住民ネットや議員たちからは、山岡辞任に至る詳しい事実経過・反省・謝罪はいまだに公にしていない。投票日までの早急な対処が必要である。

もしかしてこれが住民運動ならば、間違い失敗については情報公開し進んで反省・謝罪するものです。そうでなければ 住民はあきれはてひいては 住民運動が見捨てられ、投票率の低下を招く。